



議会だより

2017年8月1日発行

第53号

大きく育て!!
おいしいやきイモ食いたいなあ～



議長辞職勧告を可決 2
委員会の活動 4
一般質問 6

議長辞職勧告を可決

副議長が提案・議運委員長が賛成者

6月定例議会は6月9日に始まり、22日まで開かれました。議長不信任が連続して可決していますが今回は高塚副議長が提案者、藤本議運委員長が賛成者で「議長辞職勧告決議」が提案され、討論の末賛成8、反対3で可決しました。

引き続き川本議員の提案で桑本始議員が賛成者と

なる「中部広域連合と県後期高齢連合議員の辞任を求める動議」が提案され、賛成8、反対3でこの動議も可決しました。

今の琴浦町議会の現状は議会で繰り広げられる論戦を見ていただくしか理解する方法がなく、ここにその事実の要旨を掲載します。

討 論



反対 桑本賢治議員

指摘された点は当たっている。しかし、やめると合唱すれば意固地になる。このような進め方はよくない。副議長・議運委員長の辞職勧告決議は重いが追い詰めると意固地になってやめ人の目は大事だから反対する。



反対 語堂正範議員

副議長や議運へ相談が全くなかったとあるが、議長は副議長、議運にも相談している。全く守られていないというのは違うので、反対する。



反対 澤田豊秋議員

立場上反対する。議会運営は機能していない。残念で皆さんと同じ気持ちだ。議長が受け入れるのがいいが、そうでなければ正常な運営に戻していただくべきだと思い反対する。



賛成 藤本則明議員

手嶋議長誕生を応援したものと強い反省をしたい。特に手嶋議長が議運の決定をないがしろにする点は見逃すことはできない。議会が外部からの介入に惑わされることなく自主的に運営されるべきで賛成する。



賛成 青亀壽宏議員

小椋議員への回答書にある「要望書」は存在しないという回答だった。これは公文書の偽造・変造であり、決議は的を得た提案であり賛成する。



賛成 小椋正和議員

「やめろというから意固地になる」とは呆れた。議長は議員を擁護しない。間違っても謝罪しない。的確性に欠ける運営が続いている。これ以上議会の品位を落としてはならない。

辞職勧告決議

手嶋議長は、戒告処分を受け、不信任により多数の議員の信任を失った。1月臨時議会で続投を表明したが、議会運営は不適格で再度不信任となった。

手嶋議長は全員協議会で「反省し、今後は相談して進める」と宣言したが、全く守られていない。二元代表制の議会の機能が失われており、手嶋議長は即刻辞職すべきだ。

手嶋議長の「一身上の弁明」

副議長の提出は前代未聞。辞職勧告の例は飲酒運転など社会的不祥事などに限られる。

議長の議会運営が非民主的など議会内部にかかわるものは辞職の対象ではない。したがって、法的に問題なく、辞職勧告を受け入れる考えはなく、拒否する。

請願・陳情

[平成29年6月定例会]

件名	提出者	要旨	付託委員会	委員会の意見	本会議採択結果
北朝鮮のミサイルに備えた避難訓練等の実施を求める陳情	幸福実現党 鳥取県本部代表 菅田千賀子	北朝鮮が発射したミサイルを想定した避難訓練等を実施するように町長に働きかけること。	総務	趣旨採択 願意は理解できる	趣旨採択

両連合議員「辞職要求」も可決

辞職要求決議

手嶋議長の辞職勧告決議が可決された。

辞職勧告を受けた手嶋議長は、琴浦町議会を代表する連合議員として不適格であり、即刻両連合議員を辞職すべきだ。

手嶋議長の「一身上の弁明」

議長辞職勧告決議を受け入れないと表明しており、この両連合議員も引き続き勤め、辞職を受け入れる考えはなく、拒否する。

討 論

反対 桑本賢治議員

辞職勧告と一体のもの。次から次に追いかけても本人は頑張るの“一点張り”この態度がいいとはいわないが、いつまでやっても難しく反対する。

反対 語堂正範議員

連合議員は、議会で承認を受けており、本人がやめないといいており私は反対する。

賛成 桑本 始議員

琴浦町議会はなぜこうなってしまったのか、9月7日の語堂議員の欠席から懲罰委員会になった。

議長不信任が二つ、非を認めればやめるべきであり、この件について賛成する。

賛成 青亀壽宏議員

本人がやめない限りやめさせられないのは法の不備。手嶋議長が議会を代表してないのは衆目の一致するところ、これは法律を超えて代表者として存在が許されないことを示している。

本人の翻意を期待して議会の立場を明確にすべきと思ひ賛成する。

賛成 小椋正和議員

議長辞職決議が可決した。弁明は弁明ではなく続投の決意表明だ。

反対議員は議長に的確な助言をすべきだ。

多数決が議会制民主主義だが、その意味でも辞職決議に賛成する。

一般会計補正予算

29年度一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ1億4,168万円を追加し、総額104億4,068万円となった。賛成7、反対5で可決しました。



討 論



反対 桑本 始議員

中学生の英語検定の補助は効果的と答えながら、予算に計上せず、一年先に伸ばす姿勢は疑問で、補正予算に反対する。

賛成 桑本賢治議員

限られた予算の中で、いろんな個所付けができており、補正予算に賛成する。

教育委員記事

前任者の山本浩子氏が退任されたことに伴い、後任として、高力和美氏(大熊)が教育委員に任命されました。

任期は、残任期の平成31年10月26日までです。

農業委員 無記名投票で

制度改正により初の農業委員の「議会同意」は無記名投票で行われました。投票の結果は11名が同意され、2名は同意がされませんでした。

同意された農業委員【敬称略】

村 三 丸 前 福 福 中 久 川 伊 石	上 浦 山 田 田 本 本 米 崎 藤 賀
勝 正 昌 正 敏 繁 康 英 英	隆 美 環 秀 治 博 彦 好 晴 之 男

賛否が分かれた議案等の起立採決による審議の結果

議案	審議結果		大平	澤田	桑本	語堂	藤本	新藤	高塚	川本	小椋	青亀	前田	桑本	井木	手嶋	
	賛成	反対	高志	豊秋	賢治	正範	則明	登子	勝	正一郎	正和	壽宏	智章	始	裕	正巳	
議案第73号 平成29年度琴浦町一般会計補正予算(第1号)	可決	7	5	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×	欠	議
議案第85号 農業委員会の委員の任命につき同意を求めることについて	不同意	4	6	(*無効票2)										投票表決	欠	議	
議案第87号 農業委員会の委員の任命につき同意を求めることについて	同意	10	2											投票表決	欠	議	
議案第93号 農業委員会の委員の任命につき同意を求めることについて	不同意	3	9											投票表決	欠	議	
議員提出議案第5号 議長辞職勧告決議	可決	8	3	○	×	×	×	○	議	○	○	○	○	○	○	欠	一
議員提出議案第6号 議長の鳥取中部ふるさと広域連合議会議員及び鳥取県後期高齢者医療広域連合議会議員の辞職を求める決議について	可決	8	3	○	×	×	×	○	○	議	○	○	○	○	○	欠	一

この表に掲載していない議案は全会一致で可決、陳情は全会一致で不採択となりました。
○=賛成 ×=反対 欠=欠席 議=議長

委員会の活動

総務常任委員会

6月20日に委員会を開き、所管の各課から現在取り組んでいる主な事業と補正予算の内容について説明を受け、委員が質疑を行った。

付託議案審議では、請願第3号「地方財政の充実・強化を求める請願」は全員一致で継続審議となった。

陳情第2号「北朝鮮のミサイルに備えた避難訓練等の実施を求める陳情」は、趣旨採択7人不採択1人で趣旨採択となった。 委員長 桑本 賢治



日吉津イオン物産フェア

農業委員の選任方針

Q 成美地区は54戸の対象があり、その内出上地区には約280戸あるが誰もいない。バランスが悪いのではないかと。

A 選考基準は、青年、女性、認定農業者等を考慮して決定。

集落支援員の配置

Q 古布庄、以西は、決まったが、上郷地区はどうするのか。

A 各地区説明会を実施してきたが、なっていただけの方があれば、住民の方から手をあげて欲しい。

日吉津イオン物産フェア

Q 昨年までは町主体で実施しているよう感じる。生産者ももっと積極的に本気になる必要がある。

A これまでも、生産者に呼びかけてきたが、なかなか時期的なものもあり、出展者が少ない、町の産物のアピールを考えてきたが、今後は、生産者が本気になるような戦略を練り直す必要がある。

教育民生常任委員会

6月16日に委員会を開催し、各課から説明を受けた。

議案関係では、社会教育課より町総合体育館耐震対策工事、町民生活課は、来年度からの国保広域化について、福祉あんしん課は、町介護保険特別会計補正予算についての説明があり、委員が質疑し、最後に進学奨励金一般化対応について協議した。

委員長 小椋 正和

進学奨励金

進学奨励金は、高校までは所得制限はあるものの、一般化されているが、大学や専門学校については、同和地区在住、又は、同和地区出身者に限定されていた。

3月定例会議で、議員提出議案として、全会一致で「進学（大学など）奨励金の一般化を求める決議」が議決された。

しかし町長からはその後の取組状況の説明もなく、6月定例会議にも補正予算に計上されていないので、担当する当委員会としては、議長を通じて、町長に取り組み状況説明を要求する事を決定した。

その後、議長より町長に申し入れ、6月20日に全員協議会が開催され、町長より、今年度より大学等も一般化すると表明があった。



耐震対策工事を着手した町総合体育館

工事費：1億9,267万円

完成：平成30年3月

工事内容：

- ①天上改修（アリーナ、武道館）
- ②トイレ改修（洋式便器、オストメイト、コインシャワー等）
- ③その他（手すり設置、内装改修、ガラス飛散防止フィルム等）

農林建設常任委員会

6月19日に委員会を開催し、所管の各課から現在取り組んでいる主な事業の説明と補正予算の内容について説明を受け、委員から質問がだされた。

委員長 青亀 壽宏



地盤改良が必要となった成美団地

林養魚場（銀鮭）

Q 赤碕漁協との関係はどうなるのか、雇用は何人か。

A 漁協とは別。養殖部門で雇用は1人、将来的には10人の構想もある。

農業研修宿泊施設（旧以西小学校）

Q 研修制度がないのにハコモノは逆ではないか。募集のときに研修制度はできているのか。

A しっかりやっていくしかない。

成美団地改修工事

Q （引越しを促すとの説明に対し）引越したら戻ってこられないとの声があるが。

A 検討したい。

多面的機能の広域化（直接支払）

Q 赤碕地区の多面的機能支払の広域化の取組みはどうなっている。

A 土地改良区と協議し、取り組んでいきたい。

地方創生特別委員会

4月27日に、全議員で構成される当委員会を開催し、「平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業進捗状況」を執行部から報告を受け、今後について協議した。

この進捗状況は29事業について評価されており、3月末時点の一覧表は、町ホームページや議会図書室で見ることが出来ます。
委員長 高塚 勝

企業誘致推進特別委員会

4月13日、町の企業誘致戦略チームも同席し、委員会を開催した。今回は、「農産物の物流企業」について研修し、引き続き商工観光課長から林養魚場の「ギンザケ」について話を聞いた。今後委員会では、「起業」について、どのような取り組みをしていくかが課題となった。
委員長 新藤 登子

議会基本条例調査特別委員会

6月議会で「議会基本条例調査特別委員会」が設置され、構成が決まりました。未曾有の混乱を引き起こした琴浦町議会の自浄作用が図れるかの試金石となります。

委員会構成

委員長 青亀 壽宏
副委員長 語堂正範
委員 小椋正和、高塚 勝
新藤登子、桑本賢治
澤田豊秋

当特別委員会では、基本条例の見直しを行い、9月議会で中間報告、12月議会までに結論を出すことを目指します。

◆ 計 報 ◆

平成29年6月6日
山田義男議員がご逝去されました。

平成22年2月、周囲に推されて、琴浦町議会議員に初当選され、以来、2期7年有余の歳月を地方自治の発展に努められました。

その間、農林建設常任委員長、広報特別副委員長、新庁舎特別委員、議会基本条例調査特別委員、地方創生調査特別委員等を歴任されて、町政進展と町民の生活向上のため、また人権尊重のまちづくりに一身をささげてくれました。
ここに山田義男議員の功績とご遺徳を偲び謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



ここが聞きたい

一般質問 Q&A

質問議員	質問事項	掲載ページ
桑本 賢治	①「赤崎台場」跡地の活用について ②東伯総合公園（体育館を含む）の整備及び改修について ③八橋地区に駐在所の設置を	7
青亀 壽宏	①就学援助支給制度の改善を ②鳥取県中部地震の教訓を踏まえ耐震住宅リフォーム制度の創設を ③学校給食の完全無料化による子育て支援を	8
澤田 豊秋	①町長の政治姿勢について	9
高塚 勝	①防災について ②案内看板等について	10
新藤 登子	①「地域の自主防災組織づくり」100%を目指しての取り組み ②「子どもの習い事」の後押しの考えは	11
桑本 始	①琴浦町版ワーキングホリデーについて ②小中学生の英語教育と英検検定料の全額補助について	12
大平 高志	①移住定住施策について ②マンホールカード事業の実施について ③予算編成過程の透明化について	13
小椋 正和	①小・中教員の勤務実態について ②小学校の英語教科化について	14
語堂 正範	①自主防災組織について ②IJUターンの推進について ③開業医誘致制度を策定してはどうか ④外国人技能実習生の支援を行ってはどうか ⑤従業員向けの住宅支援を行ってはどうか	15

※青色のつけてあるテーマについて、本紙で詳しく紹介しております。



問

“赤崎台場”跡地の活用を

答

情報発信をする
「保存活用計画」の策定が必要
山下町長 小林教育長



桑本 賢治 議員

赤崎台場

問 「国の史跡」に指定された「赤崎台場」について、どのように有効活用されるのか。

答 山下町長

情報発信及び普及啓発を進め、琴浦町の海岸部に点在する観光スポットなどと連携して活用する。

答 小林教育長

指定後の取り組みとしては、講演会、展示会、説明看板設置等、史跡の保護、活用に努めている。整備を伴う活用は「保存活用計画」の策定が必要。

問 調査したか

八橋の茅町川、下流周辺に「お台場」があったと言われているが、調査したのか。

答 引き続き調査
小林教育長

八橋台場は、位置を特定出来なかったが調査を実施する。

総合体育館の改修



赤崎台場跡看板

問 完成見込みは

総合体育館の工事は、どの部分を改修し、いつ頃から使用可能になるか。

また、総合公園の遊具設置検討委員会の開催時期、完成見込み。

答 3月を見込む
山下町長

主要な改修は、アリーナ及び武道館、天井改修、トイレ改修であり、工期は平成30年3月9日に設定。

答 1月頃完成
小林教育長

遊具設置検討委員会を、6月に開催し、遊具は平成30年1月頃完成させたい。

駐在所の設置



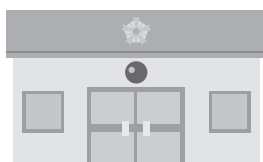
総合体育館多目的トイレ

問 駐在所の設置を

八橋警察署移転に伴い、八橋地区の安心・安全な暮らしを守るために駐在所の設置が不可欠と考えるが、設置はいつ頃になるのか。

答 今年度中にできれば
山下町長

現時点で県の問題もあり、確かな回答はできないが、今年度中に候補地を決定し契約まで実施できればと考えている。





青亀 壽宏 議員

問 就学援助必要な時に支給を

答 要綱を定めて実施している 山下町長
入学前に支給する 小林教育長

就学援助

問 国の就学援助の制度改善は、補助単価に倍増と必要な時期に速やかに支給する入学前支給だが、それに準じた改善を図るべきでないか。

答 山下町長

就学援助は、要綱を定めて実施している。「準用保護」の認定は、教育委員会に諮られており整合性はとおむね取られている。

答 小林教育長

認定を3月に行い、4月1日に通知し、保護者の口座に支給している。入学前の支給は行っていないが、入学前に支給できるように要綱を改正し、増額補正で対応する。支給単価は、改正された基準に合わせて教育委員会にはかる。

問 生保基準の1.5倍に

「準用保護」の基準を生活保護基準の1.5倍程度の目安にしたものにして、教育を受ける権利を保证する体

制を整備してはどうか。

答 1.3倍は変えない 小林教育長

家庭の状況はさまざまだ。生活状況をよく知っている民生委員のコメントもあり、ケース・バイケースで対応している。一律に1.3を変えることは考えていない。

問 町長の決意は

貧困が子育て家庭に広がっている中で、就学援助制度はバックボーンのように重要な制度だが、財源を握っている町長の決意はどうか

答 配慮していると自負 山下町長

町は、福祉・困っている方に対する配慮はしてきたと自負している。福祉という視点で困っておられる方の立場に立って、一貫した施策を打ってきた。

学校給食の無償化

問 学校給食の無償化の考えは

学校給食の無償化が、少子化対策

にもなり、子どもたちの故郷への愛着につながるが、実施する考えはないか。

答 現状では困難 山下町長

保護者の負担軽減は理解できるが、毎年7千万円の支出を伴い、現状では困難。

問 人口の多い町でも実施

比較的人口の大きいみどり市、太田原市の例も紹介した。町の長期展望として真剣な子育て支援としてどう考えるのか。

答 困難です 山下町長

都合が悪くなって止めることが許されるか。困っている世帯には840万円（就学援助）支援している。国の動向も予見できない。





澤田 豊秋 議員

問 残された課題は何か

答 人口減少と施設の老朽化だ 山下町長

町長の政治姿勢

問 町長は、安心して暮らせる町づくりを基本理念として、琴浦創生の実現と合わせて2期目の最終年度を町民と連携・連帯して全力で取り組むと述べた。

2期8年間積極的に取り組んで多くの成果もあったと思うが、残された課題はどのようなことがあげられるのか。

答 現在の琴浦町の大きな課題は、他の市町村と同様、人口減少と公共施設の老朽化、つまり地方創生と公共施設の老朽化だと考えている。

問 地域に寄り添う体制の整備を

中山間地域は超高齢化が進み限界集落と言われ、活力がなくなってきた現状がある。そういう地域に寄り添う体制の整備が必要と思うが、町長はどう考えているのか。

答 ネットワーク化を
山下町長

個々の取り組みをネットワーク化して大きな総合力にしなければと

思っている。
例えば、「琴の浦まちづくりネットワーク」というようなものだ。

問 命と尊厳が大切にされる町政を

町長は、「安心して暮らせるまちづくり」の中で、人権の大切さをく言われます。
命と尊厳が大切にされる町政を続けて欲しいと思うが、決意を聞く。

答 さらに充実を
山下町長

あらゆる人権ということに対して、これまでと変わらぬ取り組みを行い、充実に向けて取り組む。

問 老朽化した施設の方向性を早く

公共施設の老朽化の中で、例えば、ふなのえ子ども園もそうだが、老朽化した施設の方向性を早く示すべきと思うがどのように考えているのか。

答 スピード感をもって考える
山下町長

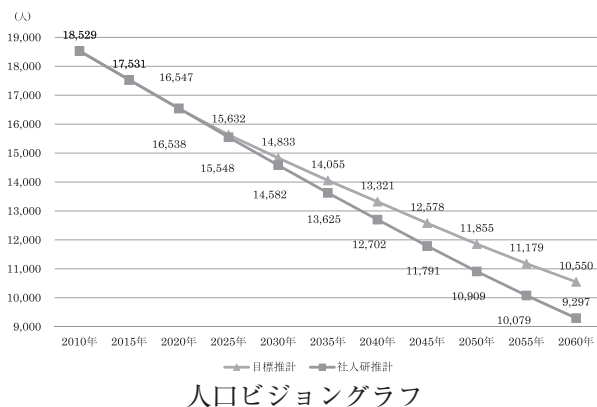
新たな子ども園を暗に伝えているが、財政的なこともあり、慎重な検討を積み上げ、スピード感をもって考えていく。

問 課題解決に向けた今後の考えは

課題はいろいろあるが、「第2次総合計画」あるいは、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をしっかりとPDCAで検証し、取り組んで欲しい。そこで、そうした課題解決に向けて、今後、町長はどのように考えているのか。

答 引き続き挑戦は必要
山下町長

総合計画ができ、創世総合戦略と有機的に車の両輪としてやっていく。計画を作ったわけで、実現に向けて引き続き挑戦していくことは必要なことだ。





高塚 勝 議員

問

ミサイル落下時対応は

答

防災無線で対応
町と情報共有し対応

山下町長
小林教育長

防 災

問 弾道ミサイルが落下する可能性がある時、町民のとりべき行動の周知は。

答 山下町長

町の防災無線は、全国瞬時警報システムと連動しており、瞬時に避難を呼びかける。広報については、町ホームページで広報している。

答 小林教育長

児童生徒、教職員の人命保護を最優先に、関係機関と情報共有して対応している。

問 避難訓練もすべき

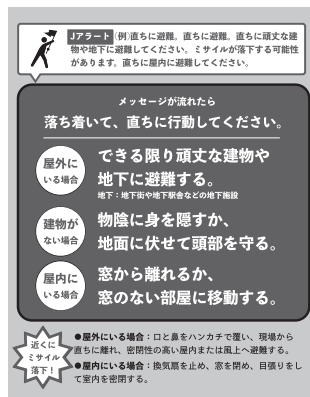
町ホームページの広報だけでは不十分、町報でも広報すべきでは。また、避難訓練もおこなうべきでは。

答 町報で広報、訓練も検討
山下町長

着弾時の対応は町報でも広報する、又、訓練も検討する。

答 訓練をしている
小林教育長

窓ガラスの近くから逃げなさい。など訓練を行っている。



ミサイルのチラシ

問 防災士取得費用助成を。

防災時、家庭、地域や職場での対応や活動が出来るため「防災士」という資格がある、取得費用の全額を助成し、取得を奨励すべきでは。

答 取得希望があれば対応する
山下町長

今年度、町は5名の取得予算を計上しているが、取得希望者が増えれば増額して対応する。



防災士チラシ

案 内 看 板

問 検討委員会設置を

道路標識、行先表示、交差点名、外国語表示、主要施設表示、集落表示などに未設置や誤表示、内容不備が多数ある。検討委員会を設置して、町内全域の案内看板等の見直しを計るべきでは。

答 検討会は必要と思う
山下町長

まずは、誤表示、内容の不備については、点検を行い修正する。検討会は必要と思う。



案内看板がない本庁舎前



新藤 登子 議員



自主防災組織の拡大を目指して



**人材発掘が必要
山下町長**

自主防災組織



住民同士の助け合い精神に基づき自主的に防災活動を行い、被害の防止や軽減を図る「自主防災組織」の結成、拡大が急がれる。またリーダーとなる人材が不足している。

「地域の自主防災組織」の現状とあるべき状態をどのように考えているか。



山下町長

自主防災組織結成状況は、五月末時点で36組織、組織率は28・2%、地域全体で災害対応は自分自身の問題と捉えていただき、地域でリーダーとなる人材を発掘していかなければならないと考える。



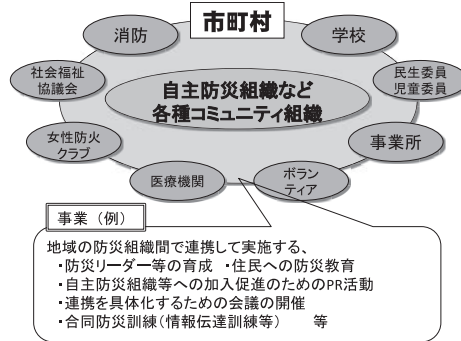
防災士の要請を

子どもや高齢者、障がい者を安全に避難させる「自主防災組織」が100%になることを願う。防災リーダーとしての防災士を要請することが必要であり、今年度予定している5名の防災士をもっと増やしては。



**5名にこだわらない
山下町長**

防災士養成は5名にこだわらない。募集をして15人でも20人でも対応する。



自主防災組織構成イメージ図

子どもの習い事



塾に助成制度を設けては

塾やスポーツ教室に通う費用の助成をすることにより、少子化対策も視野に子育て世代にアピールしては。塾に通わせる余裕がない子どもに学習の機会を広げるためにも、町独自で助成制度を設ける考えはないか。



**助成は困難
山下町長**

町ではスポーツ少年団に補助金を交付している。浦安放課後児童クラブで、モデル的に学習支援事業を実施しており、将来的には事業拡大を考えている。

塾や民間の教室に対する助成は困難である。



平等に支援を

放課後児童クラブを利用していない子どもたちにも平等に支援する考えはないか。



**すべきではないと判断
山下町長**

税金をそこに投入することの合理性、適格性を考えたときに、すべきことではないと判断している。



剣道スポーツ少年団



桑本 始 議員

問 移住定住促進
町版ワーホリ(暮らし体験)創設を

答 検討していきたい
山下町長

移住定住施策

問

鳥取市は市版ワーホリ(ストレスフリーを前面にPR動画の公開により、関東方面を中心に情報発信、お試し移住で魅力を体験)を目玉としている。
琴浦町版ワーホリを創設する考えはあるのか。

答

山下町長

県が総務省から委託を受け、県版「とっとり暮らしワーキングホリデー」を実施しており町もそれに参画、事業効果を検証しながら、今後、検討していきたい。

問

県版ワーホリを受け入れるのか

総務省の県版ワーホリは、自治体が学生の仕事先となる農家や企業、宿泊場所を確保し、地元住民との交流イベントなど、先進的に取り組む自治体に対して費用を助成することになっているが、わが町は受け入れるのか。

答

県版と連携して取り組む
山下町長

琴浦町からも一つの企業が働く場の提供を登録している。即座に移住へ繋がることは期待できる条件ではないが、学生にとって琴浦町が移住の候補地の一つになれるよう県と連携して取り組む。

英語教科実施

問

英語教科化実施方針は

小学校での2020年の英語教科化について、先行実施の方針はどうなっているか。

答

準備委員会等で検討
小林教育長

臨時校長会や準備委員会を立ち上げ、英語DVDの活用に加え、どのようにして英語の時間を生み出し、どこまでの内容を行うかを決定していくことになる。
また、小学校教員の英語指導力の課題もあり、県教委と連携して研修を進めていきたい。

問

英語教員の英語レベルは

鳥取県は学校教員の英検準1級程度の英語力の割合が全国平均より低く、教員の英語力の確保、強化が必要だ。文科省は、中学校では50%、県教委の教育大綱は65%と政府より高く定めているが、わが町の英語教員のレベルは。

答

英語教育のレベルは標準的
小林教育長

本町の中学校教員の英語のレベルは、標準的。

小学校で英語を学習した児童が中学に入り、高いレベルの授業が求められる、ALTの活用も図り、高い英語指導力を身につけさせる。

問

補助する気があるか

小・中学校の英語検定の補助をする気があるのか。

答

近隣の状況を見て検討
山下町長

英検の補助対象者、範囲、取り扱う方法など、近隣市町の状況等を見て検討する。



大平 高志 議員

問

住宅リフォーム助成の復活を

答

移住者には支援を
山下町長

移住定住施策

問

中山間の人口対策は喫緊の課題だが、町は相反する施策を推進している。例えば特定の団地への補助制度だが利用者の多くは単に町内間で住所を移転している状況だ。制度の一般化など、見直しが必要、そこで新築資金補助制度や住宅リフォーム助成の復活などする気はないか。

答

山下町長

新築住宅は固定資産税の減免があり、移住者には移住定住促進リフォーム事業補助金により支援をしている。中山間地は、人口減少率が高く深刻な問題だ。就農移住の促進や若者定住等による集落活動総合対策事業により移住を引き続き促進したい。

問

決意を施策で示せ

中山間地の振興では、いろいろな施策を打たれる、裏返せば、危機感を持っていると言っていることだ。

であれば、場所を問わず新築の補助とか住宅リフォームに取り組んで、人口を増やす、長く定住しても

らう、そういう決意を施策で示す必要があるのではないか。

答

ご理解をお願いしたい
山下町長

問題意識は持っているが、きらり団地は、平成35年度までに全部処分をしないと町が買い上げなければならぬ。ご理解をお願いしたい。

予算編成過程の透明化

問

透明化への取り組みは

予算の作成に当たり、総合計画及び前年度決算、議会での議論、町民要望などが関連づけられているか。また、当初予算編成に当たり、各課からの要求を一般公開する等、透明化を高める取り組みをしないか。

答

研究をしたい
山下町長

予算編成過程からの公開は行っていないが、事業説明書は、当初予算の概要と合わせホームページにて財政状況の公表に努めている。

査定は未定の状況で、公表することで各制度利用者の混乱を招きかね

ないか懸念しており、今後は調査研究をしたいと考えている。

問

部落解放同盟と懇談とは

4月の月例報告の資料で、11月末、部落解放同盟町協議会と懇談、それから議会に報告とある。議会と意見交換をする前に協議会と懇談とはどう関連づけがなされているのか。

答

意見交換をすることも
山下町長

過程の中で、特定の団体といろんな意見交換をすることはある、そういう形をとりながら予算編成をしている。

問

議論が活発になる

査定でどういう物が切られたのか、それが明らかになる事で、議論が活発になると思うが。

答

考えていない
山下町長

町としては、予算を編成する過程を小刻みに情報公開することは今の段階では考えていない。



小椋 正和 議員

問 長時間労働の実態は

答 実態があると認識している 山下町長
看過できない状況 小林教育長

小中教員の勤務実態

問 全国的に学校教員の長時間労働の実態が報告されているが、本町の実態はどうか。

答 山下町長
長時間労働の実態がある事は認識している。

答 小林教育長
長時間労働の傾向があり、看過できない状況である。

問 長時間労働への対応
長時間労働に対してどのような対応や指導をしているか。

答 システムを導入
小林教育長
来年度より県下一斉に、学校業務支援システムが導入される。教員の業務をシステム化、効率化を図り多忙化・長時間労働の解消になると考える。

問 部活指導の負担軽減策は

中学校の部活指導の負担軽減策、部活指導員の普及の考えは。

答 負担軽減を図る
山下町長
社会体育や地域ボランティアなど、地域人材を活用し、部活動の負担軽減を図る。

答 状況を見て検討
小林教育長
部活動指導員の導入は、県、他町の状況を見て検討したい。

問 道徳教科化への対応は
来年度より実施される道徳の教科化による教員の負担増への対応は。

答 業務全体で軽減
小林教育長
道徳に特化することなく、業務全体の負担軽減を推進することが必要。

問 長時間労働の実態は
役場の長時間労働の実態はどうか。

答 就業管理システムを導入
山下町長

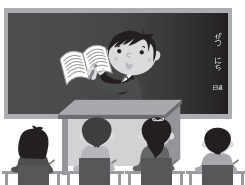
就業管理システムの導入により、管理、改善指導を行ない、長時間労働の解消、体調管理を図っている。

小中校の英語教科化について

問 英語教科化の対応は
英語教科化に向けた今後の対応は。

答 必要であれば整備
山下町長
新たな教育環境整備が必要であれば、その整備に努める。

答 慣れ親しむ環境を
小林教育長
来年度から先行実施とし、カリキュラムや指導力の向上環境整備に努める。小学生全てが英語に慣れ親しむ環境を今年度から実施する。





語堂 正範 議員

問

自主防災組織連絡協議会の設置は

答

必要と思っている
山下町長

自主防災組織

問 自主防災組織連絡協議会の設置が必要と考えるがどうか。

答 山下町長

今の情勢を総合的に考えた場合、やはり必要と思っている。

問 災害時要援護者名簿の作成は

政府は全国の自治体に、災害時要援護者名簿の作成、避難支援の取り組みや方針の策定を呼びかけているが、町では整えられているのか。

答 できていない
遠藤課長

総務課の方ではできていない。

問 武力攻撃への防災は

自主防災組織育成要領の第3条には、地震、風水害、火災、武力攻撃への防災のために組織を立ち上げることが記載されている。

武力攻撃も防災の観点で議論すべきと考えるがどうか。

答 不安でいっぱい
山下町長

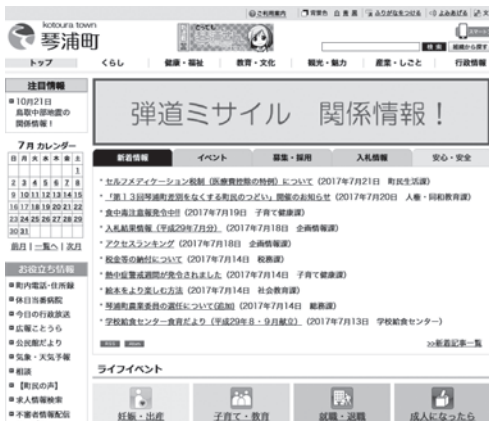
実際にあってはいけなないこと。短時間のうちに何ができるのか、うまく機能するのか不安でいっぱいである。対応ということを考えなければならぬ時期であろうと思っ

問 どこに避難すればよいのか

ミサイル発射時の避難場所として地下が通常考えられるが、琴浦町にはほほえない中で、どこに避難すればよいのか。

答 頑丈な家
山下町長

町のホームページには、ミサイル



琴浦町HP(ホームページ)

住宅支援

発射時には、頑丈な家、窓から離れた場所に逃げる、地面に伏せるといった情報を流している。防災に対して関心が高まっていることは事実である。

問 PRになるのでは

町内企業で勤務する町外従業員に対し、住宅支援があることは、PRになるのではないかと。

答 余りしていない
山下町長

従業員の住宅支援について、企業へ行政からということとは余りしていない。

答 心がけていきたい
桑本課長

町内の企業、事業所を訪問する際に、従業員が遠くから通っている話を聞くことがある。

町内への移住を考えている話を聞いたから施策もあるので、紹介します。まだ、移住されたという報告はないが、これからも心がけていきたい。

町民の声



岸本 貞治さん

「押し絵雛とともに」

江戸後期、武家の奥方や大奥の女中達の間で流行していた手芸が押し絵雛。これを商人が全国各地に売り歩き、土雛と共に庶民の雛祭りに飾られ広まったと言われています。

しかし明治後期からは座雛が出回る様になり大正後期には押し絵雛を作る人がいなくなり姿を消してしまいました。中国地方では農閑期に手の器用な女性が作って3月の雛の器市で売り、初節句のお祝いに送る習慣があったようです。そんな押し絵雛が我が家には大切に保管されていました。80数年前の物です。厚紙の上に綿と布で作った人形は湿気や害虫に弱く保存が難しく、残している家庭が少ないので今では貴重なお雛様として雛の節句には座雛と共に飾られています。

8年前、河本家の五節句に、うちの雛の節句を飾り一般公開をしたのをきっかけに、翌年から我が家でも一般公開を始め今日に至っています。友人知人に声を掛けお茶を飲みながら若かりし頃を思い出し、心なほ「また来年もね」と交わした言葉に元気をもらい、年々口コミでひろがり半月の公開に千人近い人が来てくださるようになりました。「心が落ち着いて良かった」「元気で来年も来ます」と言う声を聞き私達家族も元気を貰いながら来年を楽しみに過ごしたいと思っています。



光本 祥治さん

「高齢者組織役員としての立場から」

退職後、67歳より高齢者クラブに加入して、10年になります。

赤碕きづな第2会（高齢者

クラブ）に入り、先輩方より色々な高齢者の現状を聞き感心をもちました。最初は監事より、きづな会総会時に会計を指名され、何かと心配・不安な時もありましたが、数年の事業が詳細にわかり、高齢者として、他地区の会員の皆さんと交流をすることが出来ました。

新しい会員も多くなり、協議もすることが出来ました。

その後、きづな会長・グラウンドゴルフ協会役員、町遺

族会連合会役員、町高齢者クラブ役員、を務めています。何かと高齢者活動に協力でき嬉しく思っています。

赤碕きづな会の高齢者の方と行う「グラウンドゴルフ」「研修旅行」等は最高です。今後とも、会員の皆様の協力により、各事業を行っていきたいと思います。

皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。

あとがき



6月議会の報告となる「議会だより」をお届けする頃は、夏本番を迎えていると思います。どうかお体にはご自愛ください。

今議会では条例の見直しの必要から議会基本条例調査特別委員会が設置されました。

この条例は、議会の基本原則や、議会報告会などの開催が明記してあり、皆様の声を議会へ反映させる重要なものです。より議会が町民の負託に答えられるようなものになる事を期待しています。

議会だよりも躍動感のあるものをお届けしたいと思っています。

(大平高志)

議会広報常任委員会

委員長	語堂	正範
副委員長	大平	高志
委員	青亀	壽宏
委員	高塚	勝
委員	桑本	賢治
委員	澤田	豊秋

表紙写真

「船上小学校生徒の芋植え（6月14日）」

(撮影/語堂正範)